

高学年 3 組 外国語科学習指導案

平成29年 2月 9日 (木) 公開授業 I
 平成29年 2月10日 (金) 公開授業 II
 会場 3階 (R) (6年1組教室)
 授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
 教諭 茂木 智弘

1 単元名 「A letter to ...」 - 新教材Lesson 6 -

2 本単元の価値

次期学習指導要領では、中学年の外国語活動の開始と、高学年の教科化が発表されている。しかし、具体的なカリキュラムや学習内容、指導方法については、示されていない。本提案は、高学年教科化に向けた授業をつくりの1つの在り方として提案する。提案内容は、以下の通りである。

- 1 学習過程
 - ① 設定された課題 (目的・場面・状況等) を理解する。
 - ② 目的に応じたコミュニケーションに向けた見通しを立てる。
 - ③ 目的達成のための具体的なコミュニケーション活動をする。
 - ④ 内容面・言語面の振り返りをする。
 以上のような答申で示された課題解決に向けた学習過程を具現した単元構成、指導内容・方法について新教材を想定して提案する。
- 2 見通し段階における思考・判断・表現のさせ方
 子どもは課題解決に向けた方法について考える。「読むこと」「書くこと」の定着を求めない小学校においてどのような指導の在り方があるのかを提案する。
- 3 振り返りのさせ方
 内容面・言語面両面の振り返りは、今まであまりされてきていない。評価も含めてどのような振り返りのさせ方があるのかを提案する。

新教材「A letter to ...」は、子どもが絵本教材を通して、仲間の大切さに気付き、世界平和について考え、互いの思いを伝え合うこと (内容) を目標としている。また、その際動物を中心とした語彙と「[~ is chasing ~]」を中心とした基本的な英語表現に慣れ親しみ、使うことができる (言語) 姿を目指している。本実践では、次の価値を上記提案の中で具現する。 ※=関連する他の Lesson

- 1 世界平和に大切なことを考えさせる内容 (主に態度)
 登場する様々な動物が仲良く鬼ごっこをしたり、友達の意見を尊重したりする場面を通して、世界平和とは、互いを尊重し、認め合うことであることに気付く。
- 2 音と文字の認識 (主に知識・技能)
 動物の頭文字の音と文字をつなげていくと、「World Peace」という言葉が浮かび上がっていく仕掛けから音と文字の関係に気付く。
 ※ Hi, friends!1 Lesson6 Hi, friends!2 Lesson1
- 3 語順の気付き (主に知識・技能)
 動物たちが鬼ごっこをする場面から、[主語 (S) is chasing 目的語 (O)] の関係について活動を通して体験的に学び、気付く。
- 4 構成・表現の工夫 (主に知識・技能と思考力・判断力・表現力)
 絵本教材の内容を基に、既習の語彙や英語表現 ([can] [is chasing] 等) を使って、自分の思いを伝えることができる。
 ※ Hi, friends!2 Lesson3 Lesson7

まず、社会科、道徳、総合的な学習の時間等で国際理解の内容を学んでいる子どもに並行して「A letter to ...」の絵本教材を提示する。すると子どもは、物語の内容に着目し、鬼ごっこで必要な新しい語彙や英語表現に興味をもつ。そこで、物語の内容と同じように英語で鬼ごっこをする体験等をしながら、語彙や英語表現に慣れ親しませる。子どもは、絵本教材に沿って語彙や英語表現を聞いたり、話したりする。この時、意識を言語に向かせるのではなく、内容やその意図に着目させる。すると子どもは、既習の知識 (社会科、道徳等) を基に、世界の現状や諸問題に着目するという「見方・考え方」を働かせて、世界平和について真剣に考えるようになる。このような子どもに、普段から交流している中国の小学校の先生から、「みなさんの考える World Peace を知りたい」という依頼がある。中身の先生と自分たちの考える World Peace (思い) を伝えるという目的をもった子どもは、伝える内容とそのために必要な英語を考えるようになる。中国・英語の先生・テレビ電話という場面や状況に応じて、自分の思いを伝えるために必要な情報と英語とを関係付けるといいう「見方・考え方」を働かせ、表現内容と方法を考える。子どもは、自分たちの思いを伝える。すると子どもは、自分たちの思いが伝わっていないことに気付く。そこで、目的を達成するために必要な要素に気付く。子どもは、目的を再度意識した子どもは、自分の思いを伝えるために必要な要素に気付く。このように子どもは、考えた表現内容と方法を追加・修正させ、実際に伝え合うようになる。子どもは、自分の思いを様々な資質・能力を発揮しながら、伝え合うようになる。互いの思いの共有が図れたところで、内容面と言語面の振り返りをさせる。そうすることで、発揮した資質・能力の自覚をして、次でも使おうとする態度を育てる。

6 指導計画 全8時間 (24Q)

別紙「単元カード」参照

7 本時の構想<第1日目> 8/8時間 (60分授業)

(1) 本時のねらい (本時 8/8時間目)

中国の先生に「私たちの考える World Peace」を伝えるために、中国の先生やその反応に応じて、自分たちが考えた英語でコミュニケーションを図り、互いの思いを伝えたり、知ったりすることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆考えるすべ	教師の働き掛け
<p>Warming Up</p> <p>ALT: What's this? C: It's rabbit. ALT: R R Rabbit. C: R R Rabbit. ALT: What's this? C: It's Wolf. ALT: W W Wolf. C: W W Wolf.</p> <p>1 前時の学習を振り返る。 ・中国の先生に私たちの考え World Peace を伝えること (内容)。 ・しっかり伝わるように大きな声で伝える (方法)。 ・何を伝えようとしているのか分かるようにジェスチャーや表情を意識する (方法)。</p> <p>2 グループで練習したり、最終確認したりする。 ・じゃあ、私たちからするね。誰か、中国の先生役をやって。</p>	<p>○音とアルファベットの関係を意識させる。</p> <p>※動物になりきらせ、S(主語) is chasing O (目的語) の関係を体験的につかませる。</p> <p>※実態に応じて、絵カードで動物の言い方を確認する。</p> <p>○学習問題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>中国の先生にみなさんが考える World Peace を伝えよう!</p> </div> <p>○発問「今日の学習で大切なことはなんですか」</p> <p>○指示「グループで伝える準備をしてください」</p>
<p>ポイント1：説明の追記・修正 伝わりにくかった部分に英語を付け足したり、修正したりする。 例：A write pigeon dropped a piece.. (追記部分 = Pieces are World Peace Puzzle.)</p> <p>ポイント2：語彙の表現方法 発音等、相手に伝わりやすいように表現方法を修正する。 (修正部分 = 伝えたい言葉を強調したり、抑揚をつけたりする)</p> <p>ポイント3：動きや声の出し方修正・追加 (修正部分 = 声を大きくしたり、リアクションを大きくしたりする)</p> <p style="text-align: right;">☆外国語①</p>	<p>左の内容は、1日目考えた修正ポイント。各班の原案は、【資料】をご覧ください。</p>
<p>・ねえ、ちょっと分からないって想定でやってみてくれる。</p> <p style="text-align: right;">☆協働性 ☆外国語科①②</p> <p>3-① 中国の先生とコミュニケーションを図る。</p>	<p>○指示「追加・修正した会話文で中国の先生とやり取りする場面を設定する」 【働き掛け3-①】</p>
<p>Mary=Chinaese teacher All: Hello! We are friends. Friends are very important. Please, show us.</p> <p>A:Let's play tag! All:Yes, let's. B:Who are it? C:I'm it. C:I'm chasing D. (追いかける)</p>	<p>※SNSテレビ電話で実際に中国の先生とコミュニケーションを図らせる。</p> <p>※活動の様子は、タブレット端末で撮影させる。</p> <p>※待っている班は、他の班の会話を観る。</p>

D:Wow, You can run fast.
 C:Of course. I like sports.
 D: You like sports.
 C:Do you like sports?
 D:No, I don't. But, I can play the piano.
 C:Really? It's great! I can't play the piano.
 You can play the piano.
 D:You can play sports.
 D:I'm chasing A. (追いかける) …
 ※4人組でお互いに追いかけてっこをして、捕まえた
 らお互いのよさについて認め合う。
 All:We can do different things.
 But, we are good friends!
 It's important!
 A:What sport can you play?
 Mary:I can swim.
 C:It's good. I can swim, too.
 B:Show me the piano,please.
 D:Sure!
 Mary:Very good! It's important for us to know each
 othaer. And, You are good friends.
 Could I be friends?
 B:Yes. Sure.
 Mary: Could my students be your friends?
 C:Of course.

★協働性
 ★ツール活用能力
 ★外国語科①②③

○発問「活動後の感想を問う」
 【働き掛け3-②】

3-② 体験から考える。

- ・伝わった。中国の先生から私もあなたと友達と言ってもらえた。
- ・それにあなたたちの考えは、とても素晴らしいだって。よかった。伝わった。

4 ワークシートやタブレット端末の記録から授業で得たことを振り返る。

『分かったこと』

- ・私たちは、World Peaceとして、身近な友達の違いを認め合って、仲良くすることを伝えたら、Mary先生もそれがすごく大切だと言ってくれた。

『できたこと』

- ・[can] を使って、お互いの出来ることについて話ができる。[is chasing] は、友達を繋ぐときに使えた。
- ・Really?や How about you?等は、会話をする時に使えることが分かった。

○発問「ワークシートやタブレット端末の記録や動画を基に、授業で得たものを問う」
 【働き掛け4】

(3) 評価

中国の先生とのコミュニケーションを通して、

- ・[～ is chasing ～]を使って、自分の考える World Peace を伝えている。(知識・理解)
- ・目的・場面・状況・相手に応じて、発表の内容を変えたり、相手の質問に応えたりすることができる。(思考・判断・表現)
- ・積極的に中国の先生とかかわっている。(態度)